

(日本銀行仮訳)

2012 年 5 月 29 日  
BIS 支払・決済システム委員会

## プレス・リリース

### CPSS によるリテール決済の分野におけるイノベーション に関する報告書の公表について

支払・決済システム委員会（CPSS）は、本日、リテール決済の分野におけるイノベーションを分析した報告書を公表した。

報告書「リテール決済の分野におけるイノベーション」は、はじめに、過去 10 年間で有力な発展を遂げたリテール決済手段・スキームを対象とした実態調査から、CPSS 加盟国および他の数ヶ国における革新的なリテール決済動向の概観を提示している。

次に、観測された傾向とリテール決済の経済学に基づき、本報告書は、リテール決済の分野におけるイノベーションの推進力や障害となり得る、多数の外生的要因、内生的要因を特定している。分析は、今後 5 年間に予期され得る事象について、いくつかの指針を示すためにも活用された。

最後に、本報告書は、決済システムの触媒役 (catalyst)、オーバーシーアー、運営者としての中央銀行の様々な責任や任務に関連する、中央銀行にとっての様々な論点を特定している。

#### 注記

報告書「リテール決済の分野におけるイノベーション」は、CPSS メンバー諸国の中央銀行および世界銀行の代表で構成される小委員会により、CPSS の依頼を受けて作成された。同小委員会の議長は、ドイツ連邦銀行の Dirk Schrader が務めた。

多くの中央銀行は、金融システムの安定性や効率性をモニタリングし、自らの通貨の信頼を確保する任務の一環として、リテール決済に関心を持っている。多くのリテール決済システムは、システムックに重要なものとは考えられていないが、これらのセキュリティや信頼性に関する潜在的な脆弱性は、金融システムや経済に影響を与え得る。従って、リテール決済の分野におけるイノベーションは、中央銀行にとっての政策問題を提起し得るものである。同小委員会は、こうした背景の下、特にイノベーションに着目して、リテール決済の分野における発展を調査するため、CPSS により設置された。